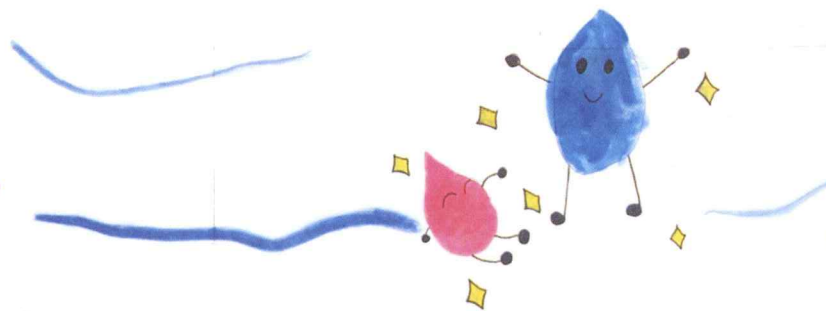
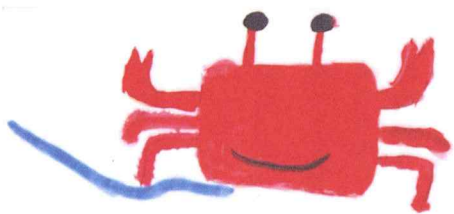
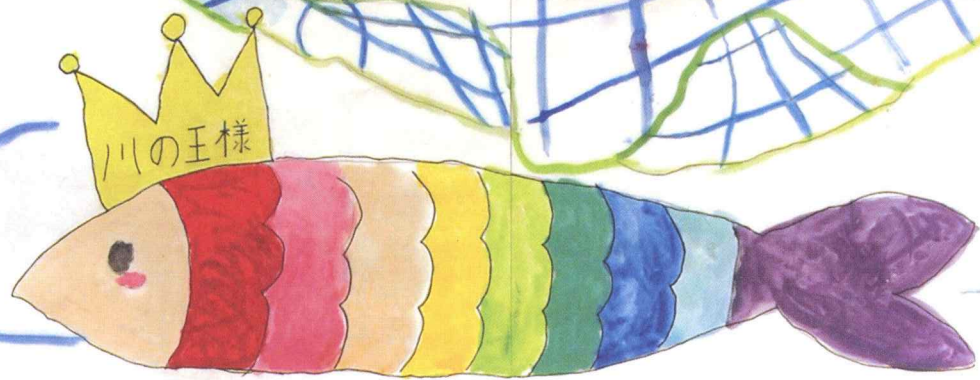


# 南川物語

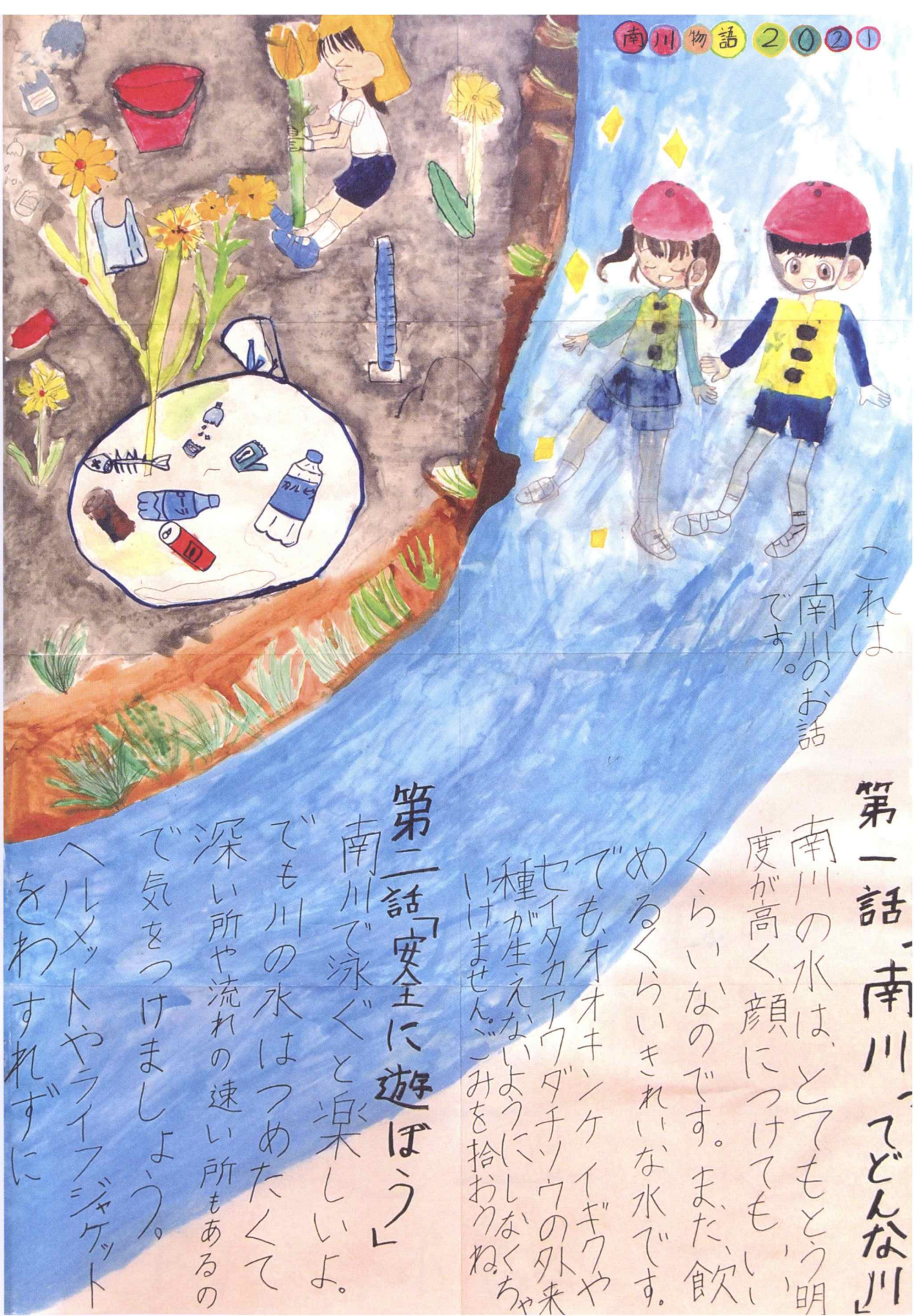
2021



今富小学校4年生







（これは南川のお話です。）

# 第一話 南川ってどんな川

南川の水は、とてもう透明度が高く、顔につけてもいらいなのです。また、飲めるくらいきれいな水です。でも、オオキンケイギクやセイタカアワダチソウの外来種が生えないように、いけません。ゴミを拾おうね。

## 第二話「安全に遊ぼう」

南川で泳ぐと楽しいよ。でも川の水はつめたくて深い所や流れの速い所もあるので気をつけましょう。ヘルメットやライフジャケットをわすれずに

あゆキング→あ しずちゃん→し ずくくん→ず

あしす みなさん こんにちは。

あ わたしは、あゆキング。南川に住んでいる王様だ。

しす わたしたちは、しずちゃん、ずくくん。南川の水のようせいです。

あしす 今年も今富小学校の四年生がやってきた。

あ わたしたちは、南川のことなら何でも知っているよ。

あ それじゃあ、話を聞いてやろう。

『南川物語2021』はじまり、はじまり

## 第一話 南川ってどんな川？



四月に初めてみんなで南川に行きました。川原でお気に入りの石を見つけて拾ったり、水切りをして遊んだりしました。五月には、南川の水を取って水質調査をしました。透明度が一〇〇センチメートル以上ありました。一〇〇センチメートル下まで見えるということで、水の中に、顔をつけてもよいAランクを示しました。植物の栄養となる物質を示す硝酸濃度は一リットルあたり一ミリグラムを示しました。飲料水と同じランクで、

南川の水は、飲める、とてもきれいな水だということが分かりました。しかし、生き物から出るよこれを示すCODは、少し高かったです。ごみ拾いもしました。あきかんやあきびん、ナイロン、ガラス、ペットボトル、ブルーシートなどのごみが落ちていて、思っていたより多くておどろきました。オオキンケイギクという外来種などが川原に生えています。外来種とは、外国から来た植物などのことで、日本にもと

## 第二話 安全に遊ぼう



もとあった植物をからしてしまいうのできけんです。秋にゴミ拾いや草取りに行ったときには、一メートルほどの高さにもなる外来種のセイタカアワダチ

あ そのとおりだ。南川の水は、飲めるほどきれいなんじやよ。これからはきれいな水にしていってほしいな。

六月、川流れ体験をしました。おぼれないように、ライフジャケットをつけました。ヘルメットは、頭を守るために必要です。水は、思ったより冷たくて、川の流れを感じました。川の中は浅い所も深い所もありました。川の中には、じやりや草がありました。足を上げて体の力を抜くと、体が浮いてきました。体が冷えたら、川原や土手でね転んだり、ペットボトルの

あ そうなのだ。みんなも川に行く時は、ヘルメットとライフジャケットをわすれずに、安全に遊んでほしいな。



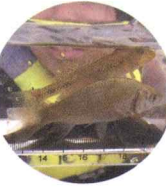


### 第三話 『南川はスゴイ』

南川は名田庄の頭巾山から流れてきます。長さ三十九キロメートルもある嶺南で一番長い川です。洪水をふせいだり飲み水や田んぼの水になったり生き物の住みかになったりしています。海と山につながっているすごい川なのです。

### 第四話 『生き物いっぱい南川』

南川には約四十種類もの生き物が住んでいます。生き物ごかしは楽しいよ。でも、あみの使い方が大事、草の下や石の下、土の中にかくれている所をかさがサと追いこんで取ります。魚だけではなく川虫やヤゴ、アメンボなどの水生こん虫もいますよ。

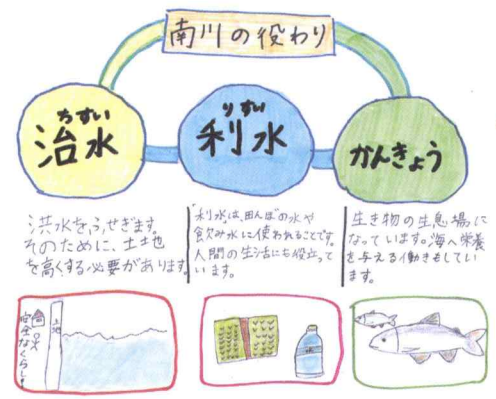


### 第四話 生き物いっぱい南川

七月、生き物教室があり、南川について勉強しました。南川は、長さ三十九キロメートル。嶺南で一番長い川です。名田庄にある頭巾山という高さ八九メートルの山から流れているそうです。

あ 南川は、森とつながっているのだよ。

川の働きは、治水、利水、環境です。治水とは、土地を高くして、洪水を防ぐということ。利水とは、飲み水や、田んぼの水になることで、人間の生活にも役立っています。環境とは、生き物のすみかになっているということ。川にはカワゲラ、カゲロウ、トビゲラなどの小さな川虫がたくさんいます。魚は川虫を食べ、川虫は落ち葉を食べて育ちます。川の魚を増やすには、川虫のえさとなる落ち葉が必要になるので、山の木を増や



九月になって、みんなで生き物調査に行きました。ライフジャケット、ヘルメット、あみ、バケツを用意しました。あみは「シュツ」とふってとるのではなく、足で魚を追いこんで「ガサガサ」ととり方をします。生き物は、草の下や石の下、土の中にかくれていました。浅い所や深い所ではいる生き物もちがいます。季節によってもちがうそうです。なかなかとれなかつたけれど、あみの中に入ったときはうれしかったです。

とれた生き物のしょうかいをします。ヌマチチブ、モクスガ

ニ、ヌマエビ、トビケラ、ゴクラクハゼ、カジカ、テナガエビ、ヒゲナガカワトビケラ、フナ、スミウキゴリなどです。初めて知った名前の魚もいっぱいありました。

川虫や、ヤゴ、水カマキリ、アメンボなどの水生こん虫もいました。わたしたちは、十四種類しかとれませんでした。南川には、約四十種類の生き物が住んでいるそうです。サクラムスやあゆのように、川から海へ泳ぎ、また、川へもどってくる魚もいます。南川の生き物を守り続けていきたいと思っていました。



あ わたしの家族も住んでいる。よろしくお願ひするぞ。ところが、南川は、いいことばかりではなかったのだ。





# 第五話 南川の昔、災害にそなえよ

昭和二十八年九月、台風13号におそわれ南川がはんらんしました。南川のていぼうや湯岡橋鉄橋がくずれ多くの材木や人が流されました。水は三メートルの高さまでできてひ害は今富地区に広がりしました。今の南川はともおたけかです。でもいつ起こるかあからな水害のひ害にあわないために自分の命をし、かり守りましょう。ハサードマップを見て早めの、ひなん。ふだんから水や食料、ひつような物をそなえておくこと(ローリングストック)が大切です。

## 第六話 『南川にいるあゆ』

南川にはあゆが泳いでいます。天然のあゆは、黄はんという胸のマークが大きく川から海へ泳いでいき、秋になると産卵のために川にもとってきます。あゆの一生は短く、年魚と呼ばれるまでに一年きり。昔はたくさんいたあゆも今は、数が少なくなりました。人工授精をしてあゆを増やしている、こうという取り組みも行っています。



## 第五話 十南川の昔、災害にそなえよ

わたしたちは、昭和二十八年の台風十三号でひ害にあった和久里地区に見学に行きました。常福寺や何件かの家では、水が地面から三メートルの高さまで来たというあとを見ました。南川のていぼうや湯岡橋や鉄橋がくずれて、流がおよせ、多くの人や木材が流されたそうです。和久里地区だけではなく、生守、府中、野代の家や田畑までひ害が広がったそうです。二十日くらいたってようやく水が引きましたが、元にもどるまで十年ほどかかりました。

死者、行方不明者合わせて四十一名だったそうです。多くの命がなくなったことを知り、水害のおそろしさを感じました。



## 第六話 十南川にいるあゆ

九月、あゆの生態について調べました。あゆには、六種類のひれがあります。あぶらびれは、あゆなどの一部の魚にしかない特別なひれです。あゆの胸にある黄色いマーク、黄はんが大きくて色あざやかなほど強いあゆだということを示します。天然のあゆは、縄張り争いをするので、養しよくあゆよりも黄はんが大きくてはつきりしているのです。

「年魚」ねんぎょ「香魚」かぎょ「銀口魚」ぎんぐちぎょこの漢字は、全てあゆのことです。あゆは、秋になると海から川にもどり、一年で一生を終えるから「年魚」とよばれています。「香魚」は、コケのような、も食べているので、スイカやきゅうりのようないい

香りがするからです。銀口魚は、くちびるが銀色だからです。わたしたちは、そんなあゆを焼いておいしくいただきました。まず、口からしっぽをめぐけてくしをさします。次にけしょう塩をします。ひれに塩をつけることでこげのを防ぎます。苦いところがあつたけれどとてもおいしかったです。

南川のあゆは、昔に比べて減っているのです。人工授精をして、人の手であゆを増やしているそうです。

秋になると、落ちあゆをねらってサギや鶴などの鳥がやってきますが、このあゆをふやす取り組みで、少しでも多くのあゆが育ってくれるとうれしいです。

しす

ローリングストックってなあに？  
必要な物を準備しておいて、使ったら買ったして、常に備えておくことだよ。



しす

本当にあゆは昔にくらべて減っているよ。少しでも育ってくれるとわたしたちもうれしいよ。ねえ、あゆキングさん！







## 第七話「グリーンエネルギー、水力発電」

南川の上流には砂防ダムがあって、川の水をきれいにしたり、生き物を守ったりしています。そのダムの水を利用して電気を起こす水力発電が始まりました。川の水を使った自然のエネルギーです。一年間に82万kW発電します。南川でいろいろなことが行われていて、知って、びっくりです。

## 第八話「泳げ小さなサクラマス」

十二月、小さな発眼卵から小さな魚が次々にふ化しました。学校で飼育をはじめたサクラマスです。南川の上流にもサクラマスが住んでいます。成長しながら海に泳いでいき、二年後もどってきます。三月に放流するサクラマスのち魚も自然に、ばいの中で大きく育ててほしいです。

## 第七話 クリーンエネルギー！水力発電

十一月、南川で五年前から取り組んでいる水力発電がとうとう始まったという話を聞きました。南川の上流には砂防ダムがあって、川の水の量を調整したり、水をきれいにしたり、生き物を守ったりしています。そのダムの水を利用して、電気を起こすのです。南川から自然のエネルギー、すなわちクリーンなエネルギーが生まれていると知っておどろきました。

することができず。一秒間に九百九十リットルのダムの水が使われるそうです。これは、二リットルペットボトル四百九十五本分になります。水力発電が、川の環境を守っていることも分かりました。上流のダムや水力発電の様子を見に行きたいと思いました。



その仕組みは、サイフォン式といって、直径九十センチメートルのパイプを通して、ダムの水をくみ上げ、十六メートル下に流します。その落ちてくる水の力を使って、一年間に八十二万キロワットの電気を発電

## 第八話 泳げ小さなサクラマス

十二月、サクラマスの生態を学びました。サクラマスはヤマメと同じ魚ですが、川に残るのがヤマメ、海に行くのがサクラマスとよばれます。体には、もようがありますが、サクラマスの体のもようは、海へ行くにつれて銀色に変わっていきます。北へ北へと泳ぎ、北海道まで行きます。海でたくさんのえさを食べたサクラマスは、春になると産まれた川にもどってきます。体がピンク色になると産卵の準備ができた印です。卵を一回に三〇〇〇産みます。

魚は、おなかに「さいのう」という栄養の入ったぶくろを持っていきます。この時はまだえさはあげません。発眼卵から「さいのう」がなくなるまでは、光に弱いので周りを暗くします。サクラマスは、小さい時から立派です。小さなサクラマスは命の大切さを教えてくれました。これからもえさをたくさん食べて、南川で元気に泳いでほしいです。



へ？知らなかったよ！  
え？!? 何でも知ってるんじゃないの？  
わたしたちも流れてみたいね！

わたしたちは、このサクラマスを発眼卵から魚になるまで育てるようになりました。世話をしている時は、サクラマスが病気になるように必ず手を洗います。発眼卵からかえったち

川にもどってくるのを待っているよ！



第九話 南川で関わった人

わたしたちは、地域の多くの人と関わることで、南川とつながることができました。今まで知らなかったことをたくさん学ぶことができました。今までより、もっと南川を見るようになりました。

いろいろな人達が、南川のために活動をしていることを知りました。南川は、みんなにとって、とても大切な川だということが分かりました。

第十話 南川の未来

そして、わたしたちにできることは何かと考えました。

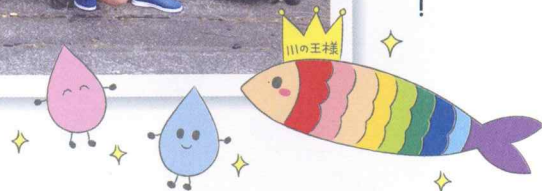
- 生き物がいっぱいいる川にしたい。
- そのために、川をきれいにしよう。
- そのために、きれいな水にする。
- そのために、ゴミを減らす。
- そのために、ゴミを捨てない。

それから、川で楽しく遊びたい。そのために、きまりと安全を守る。南川のことを地域の人に伝える。



これからも、南川物語は続きます。

あしず これからも南川を守ってくださいね〜！



お・し・ま・い

